

第9回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成23年10月28日(金) 18時30分～20時30分

2 場 所 千城台西中学校 図書室

3 出席者

(1) 委 員 16名 *欠席 奥田委員、鈴木委員、酒井委員、來住委員、山崎委員、児玉委員

(2) 事務局 6名 *教育委員会企画課 高須課長、国方課長補佐、白井主幹、加茂主査、
山崎主査補、安井主査補

(3) 傍聴者 8名

4 報告・議題

(1) 【報告1】 前回協議および意見等

(2) 【報告2】 PTA・自治会での意見・質問等

(3) 【議題1】 千城台地区小学校の統合シミュレーション

(4) 【議題2】 次回開催日時・場所について

(5) 【議題3】 その他

5 会議資料

(1) 「前回(第8回)地元代表協議会での協議」

(2) 「千城台地区小学校のシミュレーション」

①千城台北4丁目および御成台1～3丁目の児童数

②千城台北4丁目および御成台1～3丁目を千城台北小に移した場合の組み合わせ一覧

③シミュレーション結果

6 議事の概要

(1) 【報告1】 前回協議会および意見等

前回協議会での話し合いの内容を事務局が説明し、確認した。

(2) 【報告2】 PTA・自治会での意見・質問等

前回協議会以降、各学校や自治会で行われた話し合いや活動についての報告が行われた。

(3) 【議題1】 千城台地区小学校のシミュレーションについて

資料「千城台地区小学校のシミュレーション」に基づいて、「千城台北4丁目および御成台1～3丁目を北小に移した場合の組み合わせ」について事務局より説明後、質疑応答を含めた協議を行った。

今回は、これまで示したシミュレーションを「適正な学校規模となる」「学区が接続する(分断しない)」という観点から整理し、事務局から提示することとなった。

(4) 【議題2】 次回開催日時・場所について

次回協議会は、平成24年1月27日(金) 18時30分から20時30分、千城台公民館にて開催することとした。

(5) 【議題3】 その他

協議会の周知に関連して、「協議会便り」第2号の発行について事務局から提案があり、了承された。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶

本日は、2年目に入り第9回目となる。内容の濃い会議としたい。

「千城台教育を考える会」からプリントが配られているが、ご意見がある方は後ほどお願いしたい。

(2) 「千城台教育を考える会」から出された内容について

〈菅原議長〉 報告・議題に入る前に、「千城台教育を考える会」から出されたプリントについて、ご意見がある方はお願いしたい。

〈佐々木委員〉 先日、東小の校門前で子どもたちにアンケートを配っているという情報が保護者からあった。この時期にどうなのかと思う。

〈安部会長〉 全校児童に配ったと聞いているが、いかがか。

〈佐々木委員〉 全校の児童ではなく、一部の児童である。

〈大和久委員〉 西小でも、校門の外で配っていたと聞いている。

〈菅原議長〉 先日、商店街でも同様のアンケートが置いてあった。参考までにそれを持ってきたので回覧する。

〈佐々木委員〉 保護者へのアンケートであるが、子どもに直接配られた。子どももアンケートの内容を見てしまう。

また、保護者からは次のような意見が出ている。

- ・金銭面の項目等、協議会ではまだ話し合っていない内容が記載されており、子どもたちに手渡すのはおかしい。
- ・このアンケートに記載されている情報と私たちが話し合っている内容が食い違っている。
- ・PTAとしてもアンケートをとっているが、まだこの時期に踏み込めない内容が含まれたアンケートが配られたことは、いかがなものか。

是非、この協議会として安部会長から千城台教育を考える会に話をしていただきたいと思う。

〈安部会長〉 事務局と相談して、対応を検討していきたい。

(3) 報告

報告(1) 前回協議会での意見等

〈菅原議長〉 報告1「前回の協議・意見等」について、事務局に説明をお願いする。

〈事務局〉 前回の協議については既に議事要旨が確定しているので、簡潔に説明する。

- ①「学校全体として統合する」場合として考えられる組み合わせ一覧(51通り)を示した。
- ②概ね「適正規模となる」シミュレーションを中心に協議した。
- ③協議の中で、「規模」だけでなく「配置」特に「学区の接続」の視点からも検討が行われた。

また、協議会后、2名の委員から次のような意見が寄せられたので紹介する。

- ・災害発生の避難所としての役割を考えると、各町内に1校ずつの配置が必要ではないか。
- ・特別支援学級の児童が、統合によって混乱するようなことがないように、また不安になることがないようにお願いしたい。

- ・子どもルームは、今まで通りに各学校内に設置してほしい。
- ・通学路の安全確保を優先してほしい。
- ・適正配置について、これからも積極的な周知が必要である。

報告（２）PTA・自治会での意見・質問等

〈菅原議長〉 前回の協議会以降、各校PTAや自治会等で話し合ったり、話題に出たりしたことがあれば、その様子をお聞かせ願いたい。まず、各学校から願います。

〈大和久委員〉 10月1日（土）に教育委員会に来てもらい、適正配置についての学校説明会を行った。後半部に保護者だけで座談会形式の話し合いを持ったので、その内容を報告する。

- ・結論として、条件付で「適正配置に賛成である」という意見がほとんどであった。
- ・「魅力ある適正配置」であれば賛成であるが、ただ小規模だからという理由だけで統廃合するのはどうか。
- ・多少遠くても、設備が整っていて環境が良ければ、通わせたい。（ただし、私から「新築にするということは学校適正配置実施方針になく、今ある校舎を使用して改修等をする」ことを伝えた。）
- ・「魅力ある適正配置」の1つとして、小中一貫校というのはどうか。若葉区に1校あっても良いのではないか。

このような意見を踏まえて、教育委員会が全面的に千城台地区をバックアップするという信頼関係がないと進まないと思う。私としては、「魅力ある適正配置」にするためには、最終的には優秀な先生方が千城台地区に来てもらうことではないかと思う。小中一貫校はメリット・デメリットがあるので、まずは小中連携でも良い。子どもたちのことを真剣に考えていくことが大切であると考えている。

〈佐々木委員〉 東小としては、現状で良い方向に進んでくれればという意見が多い。運営委員会でも、時期など条件が揃った段階でもう少し煮詰めた内容を話してほしいという意見である。

〈高野委員〉 以前に教育委員会に来てもらい説明会を開いたが、その後の状況としては、総論は「賛成」だが、各論になると「自分の学校は残してほしい」という意見が出る。

〈加瀬委員〉 10月22日（土）に教育委員会に来てもらい、自治会で説明会を行った。資料は教育委員会から出されたものと、私が整理したものを用意した。当日の参加者は少なかったが、忌憚なく話し合い、いろいろな意見が出されたので、報告する。

- ・教育の効果を第一に考えて進めるべきである。各小学校の学級の推移から考えると、2校～3校になっても仕方がない。
- ・適正規模は教育効果を高める。適正規模は12～24学級であり、1学級の人数は市平均で小学校は30名を切っており、中学校は32名程度である。あとは適正規模にすることによって、教員の数、予算、設備等が整ってくる。
- ・1学年1学級は良くない。人間関係面、指導面、学校運営面等のメリットがないと考える。クラス替えができる規模であれば、子どもの言動パターン（会話の語彙）が多様化するし、対処能力が高まるのではないかと考える。
- ・資料の8番、15番のパターンが良い。12学級だと将来人数が減った場合、11学級以下になってしまう。2校の場合は現在の学区割を廃止して、学級数のバランスを考え、通学距離を考慮して、新たな学区を考えるべきである。また、中学校の適正配置についても一緒に考えていくことが良い。

・子どもルームの時間帯によって、入所を決めかねている親がいる。働いている親が多い中、時間帯など条件の良い子どもルームのある学校を選ぶと考えるので適正配置をする上でも考慮すべきである。

※事務局で確認したところ、どこの子どもルームも通常は18時までだが、希望すれば19時まで見てもらえるということである。

このようなことからまとめると、統廃合を進めるにあたって重視すべきは、

- ①子どもたちにとって、望ましい教育ができること
- ②効率的な教育ができること（すなわち適正規模の学校ができること）
- ③子どもたちに一番良い教育を受けさせるにはどれが望ましいかということをも優先にすべきであり、住民のエゴは入れるべきではないこと
- ④廃校の施設については、住民の意見を十分聞いて受け入れてほしいということであるとする。

〈中村委員〉 私の自治会では「報告」という段階で、まだ意見が出ていない。

〈谷野委員〉 現在、自治会内では高齢者対策が大半である。この協議会で話し合った内容については、今後報告していきたい。

〈多田委員〉 先週、自治会だよりで協議会の内容について掲載し、意見があったら連絡していただきたい旨を周知した。班長会議（年4回程度）でも30名ほど集まったが、その席でも報告を行った。

話が変わるが、小学2年生の孫がタイから帰ってきて、本日から南小にお世話になっている。タイの日本人学校では、全校で2500人程度の子どもたちがスクールバスで通っている。2年生は9クラスで、他の学年は10クラス程度である。大規模校であり、先生方も苦労されているようである。

一方、南小の2年生は15名であり、今日1日でほとんどの友だちと仲良くなったようである。早速、近くの公園で8名の友だちと遊んでいた。少人数学級のメリットかもしれない。ただし、いじめ等の問題が生じた場合、少人数の中でどう解決するのか考えてしまう。

個人的には今後子どもが増えるとは思えない状況の中、今のままで良いのかと感じている。いろいろな面から話し合われてきているが、今後も協議していき、自治会にも伝えていきたい。

〈土屋委員〉 私は、分校のある小規模の学校に通っていた。1～4年生までは分校、5年生から本校というものであった。小規模校では、全校児童の名前がわかるなどアットホームな良さがある。一方、大規模校では行事等活発に行われる。どちらが良いとも言えない。「魅力ある適正配置」になれば良いと考える。住民のエゴが出るのは当然であるが、子どもたちのために考えていくことが大切である。

また、魅力ある地域にするためにも教育委員会からも行政の方に働きかけてもらい、住み良い環境にさせていただき、人が集まるような地域にしたい。

〈村田委員〉 先ほどから出ているように、「魅力ある学校適正配置」に向けて、メリット・デメリットを十分に考えながら進めていけば良いと思う。

〈鶴岡委員〉 「魅力ある学校」とは、どういうことか。設備を整える、スタッフを集めるなど、いろいろ考えられる。また、学級数をどの程度にしていけば良いのか。中学校も含めて考えることが大切である。私は、教員として全校45学級（各学年15学級）の中学校での勤務経験があるが、大規模校は身動きがとれない。そういうことから、適正規模となる、資料8番あたりのシミュレーションが良いのかなと考えている。

先日、東京都の廃校された学校を見学したが、子どもたちのダンスや邦楽教室等に

活用されていたが、全教室は使われていなかった。

話を戻すが、中学校を2校残すことを考えるならば、資料3番あたりも良いと考える。

〈大澤委員〉 「千城台教育を考える会」については、この協議会に毎回プリントを出してきているが、その内容については会長の方でチェックされているのか。誤った情報が書かれている場合、きちんと指摘しているのか。

〈安部会長〉 特に伝えていない。配っていただきたいということで承諾している。

〈大澤委員〉 誤った情報が広まると、この協議会で話し合っているのは何なのかと思われてしまう。協議会の内容も誤解されてしまう恐れもあるので、是非、安部会長から「千城台教育を考える会」に話していただくのが良いと考える。

適正配置については、「1中・2小」という方向性が示されているが、御成台についてはよく検討していかなければならないと思う。魅力ある地域作りについては、同意見である。

(4) 協議

議題(1) 千城台地区小学校のシミュレーションについて

〈菅原議長〉 まず、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 前回「小学校の統合シミュレーション」を提示した。そのシミュレーションは、「学校全体で統合する(今のままの学区での統合)」ということだった。

①今回は「統合シミュレーションの作成に関して、委員より提出された作成条件」をうけて、現在、東小の学区である「千城台北4丁目および御成台1～3丁目」を北小学校に移した場合のシミュレーションを示す。

②資料3ページの左側の表は、住民基本台帳を基に、平成26～29年までの「千城台北4丁目および御成台1～3丁目」の小学校1～6年生の児童数を示している。

③資料3ページ右側の表は、左側の表の児童数すべてを、現在の東小の学区から、北小区へ移す(北小区とする)という場合の、各校の児童推計を示している。

④資料4ページは、「千城台北4丁目および御成台1～3丁目」を北小に移した場合の統合組み合わせ一覧表である。

・そのなかで、網掛け着色部分は、前回シミュレーションと比べて、26～29年度までの間の最大学級数が変わった部分をあらわしている。

・小規模校、大規模校となる場合には、()のなかに小規模校、大規模校と記している。

⑤資料5ページ以降は、前回提示したシミュレーション(15パターン)と今回のシミュレーションにより、「概ね適正規模」となる3パターンを加えた、18パターンを掲載している。

これから協議していただくが、「より良い子どもの教育環境を作ることの視点での協議」「学校適正配置実施方針の規定に沿うこと」という2点を踏まえた協議をお願いしたい。

また、提示したシミュレーションの「どこが問題(課題)になるのか」について様々ご意見を出していただきたい。併せて「どのシミュレーションを今後も引き続き検討するものとするべきか」についても、協議いただきたい。

- 〈菅原議長〉 提示されたシミュレーションと事務局の説明に基づいて協議を進めるので、質問を含めて意見はあるか。
- 〈石原委員〉 このシミュレーションは、協議会委員から要望があったものか。他の地域を動かす要望はないのか。
- 〈事務局〉 協議会委員から「御成台を移した場合のシミュレーション」の要望があった。他の地域について今は出されていない。今後、要望があれば示していきたい。
- 〈石原委員〉 佐々木委員に質問する。御成台からの距離では、東小と北小は変わらないか。
- 〈佐々木委員〉 以前に事務局から資料が出たと思う。
- 〈事務局〉 あまり変わらない。
- 〈佐々木委員〉 資料を見ると、御成台2丁目の児童が多いと改めて感じた。御成台には学校用地となる予定だったという場所があると聞いているが、それを活用することは考えていないのか。
- 〈事務局〉 今後、児童数が増加する状況が出てきた場合は検討される。東小や北小にも入れないほど増加する等の場合である。
- 〈土屋委員〉 御成台2丁目は87戸増えた。その影響もあって児童数も多いのだろう。
- 〈加瀬委員〉 「魅力ある学校作り（適正配置）」についてだが、想像しにくい課題である。
- 〈大和久委員〉 確かに抽象的で捉えにくい。それだけ難しいことを協議していくということである。適正配置を進める上では我慢する人も出てくるであろう。その時に「魅力ある適正配置に基づいて行った」ということが大切ではないかと考える。
- 〈安部会長〉 新しいものを作るというよりも、目に見えることから始める、今ある資源（学校施設等）をどう使うかを考えていくべきだろう。また、先生の質など、これから具体的に考えていくことだと思う。
- 〈加瀬委員〉 「魅力ある学校作り（適正配置）」のポイントを各協議会委員が宿題で考えてきてはどうか。
- 〈谷野委員〉 自分の子どもが小学校の時に旭小ができ、東小の学区が変更となった。旭小の学区となった子が「なぜ東小に行けないのか」と言っていたことを覚えている。
- 〈加瀬委員〉 大人の目線で決めるのではなく、子どもの目線で考えていくべきである。
- 〈大和久委員〉 西小での意見交換会の中で「魅力ある適正配置」と考えるなかで、話題が発展していった。小中一貫校のことだけでなく、特別支援学級への配慮、千城台地区の過疎化を止めるためのアイデア等、いろいろ観点から考えていくことだと思う。
- 〈加瀬委員〉 小中一貫校については現実的ではないようだが、いかがか。
- 〈事務局〉 小中一貫校は、いわば「縦の統合」という見方ができるかと考える。
今回提示したシミュレーションはあくまで「小学校どうし」の統合、いわば「横の統合」を基本としたものである。シミュレーションを「たたき台」とした協議では、先ほど確認した視点（「より良い子どもの教育環境を作ること」「学校適正配置実施方針の規定に沿うこと」）を評価基準とするとともに、前回の協議会で鈴木委員から出されたように、「地域としての評価基準」を加えた、2つの点から協議していただきたい。その中に、「小中一貫」の是非や「公共施設として学校の役割から見た配置」等が入ってくることはあるかと考える。
- 〈土屋委員〉 例えば、小学校から高校までの12年間を成長過程で見て、4・4・4に分けて考えることもできるのではないか。A校では小1～小4、B校では小5～中2、C校は中2～高3と考える。また、小中高一貫ということもどうか。
- 〈藤井委員〉 資料では、18通りのシミュレーションが示されている。その中で、5校統合は学区が広すぎて現実的ではない。南小の保護者は、学校に近いという理由で引っ越して

きた人もいる。そういう意味で、千城台地区を3つくらいに区分する案が距離的に良いのではないか。子どもの負担や適正規模校が本当に良いのかなども含めて、多角的に考えていくことが大切である。

〈安部会長〉 我々協議会委員も条件等ポイントを絞って、シミュレーションを考えていくべきである。

〈佐々木委員〉 更科小については、現在5年生の男子が8人いる（在籍12人）。下田町からは更科小も東小も車で送迎では時間的に変わらないので、学区外通学承認地域であり、児童数の多い東小に通わせている。

一方、地域としては更科小地域は魅力的であり、今でも地区運動会をやっている。千城台でも西町のお祭りがあり、とても良いと思う。

「魅力ある地域作り」については、学校の運動会に、地域と連合した種目を取り入れることを考える等から始めてみるのも良いのではないか。町内とのつながりを考えていきたい。

〈安部会長〉 千城台地区には自治会が36ある。お祭りも以前はやっていたので、昨年からは復活するよう提案している段階である。

〈事務局〉 学校は「地域の核」としての役割もあり、地域コミュニティとの連携が大切であるので、地域との関連で議論していくも大切であることは認識しているが、まずは「子どもたちの教育環境」という視点を第一に、協議いただきたい。

〈高野委員〉 本日の御成台の学区変更のシミュレーションを考えていく場合、現実的にあり得るのか。学区を変更するにはどのようなことが必要なのか教えていただきたい。

〈事務局〉 学区の変更については、地域住民や保護者の要望を受けて検討していくことになる。実際に学区変更となるには、地域住民の合意を得た上で「通学区域調整検討委員会」での協議を経てという手続きになる。今回示しているのはあくまでシミュレーションである。例えば、本協議会で学区の変更について合意され、要望があがれば、上述のような手続きを経ていくことが必要である。

〈菅原議長〉 今回の協議についてどうするか、事務局から提案はあるか。

〈事務局〉 前回と今回示したシミュレーションの中で、「適正な規模」となり、且つ「学区の接続」という配置の面からみて、現実的なシミュレーションを絞って提示し、その上で小学校の統合の必要性について検討していきたいと考えるが、いかがか。

〈菅原議長〉 今の事務局の説明について、意見があるか。

〈石原委員〉 「現実的と思われるシミュレーション」はどのように決めていくのか。

〈多田委員〉 各委員が「このシミュレーションを協議するのが良いのではないか」ということを教育委員会に示して、それを整理してもらえれば良いと思う。

〈事務局〉 前回および今回で、「考えられる統合のすべての組み合わせ一覧」と「概ね適正規模となる」シミュレーションを提示した。そこで、前回・今回で示したシミュレーションの中から、「概ね適正な学校規模となる」「学区の接続している（学区が不連続で離れてしまわない）」という客観的な2点に従って事務局で整理し、提示していくことでいかがか。

〈一同〉 了解する。

〈事務局〉 議事要旨（案）の確認時あるいは次回開催通知の送付時に、「次回資料」として事前にお送りする。ご検討いただき「〇番が協議していくシミュレーションとしては良い。理由は〇〇である。」というようにご意見を事前に回答いただきたい。それらを整理し、次回協議の資料として提示する。

〈安部会長〉 お気づきの点も含めて、教育委員会に意見を出していただきたい。

〈佐々木委員〉 以前の協議会において通学距離の資料を出していただいた。考える参考としたいので、その資料も添付していただきたい。

〈事務局〉 了解した。通学距離の資料も併せて送付する。

議題（２）次回開催日時・場所について

〈菅原議長〉 「次回開催日時・場所」について、事務局からの提案をお願いする。

〈事務局〉 次回は来年１月２７日（金）１８時３０分から、千城台公民館で開催ということでいかがか。

〈一同〉 異議なし（了承）。

議題（３）その他

〈菅原議長〉 協議会委員から何かあるか。

〈土屋委員〉 冒頭に出た「千城台教育を考える会」の件については、安部会長から先方に話をしただけのよう、再度お願いする。

〈菅原議長〉 事務局から何かあるか。

〈事務局〉 シミュレーションに基づいた協議も始まり、協議会の様子を周知するために、「協議会便り」第２号を作成し、保護者・地域・関係機関に配布したいと考える。内容について会長・副会長と相談し、事務局で案を作成し委員に送付するので、確認いただいた上で発行としたいと思うが、よろしいか。

〈一同〉 異議なし（了承）。

（５）連絡

・欠席の場合は早めに事務局まで連絡をお願いしたい。なお、代理出席も可である。

・本日の議事要旨については、案を作成し、委員の方々に確認していただく。

期日までに回答がない場合は「修正なし」とさせていただきます。

委員の確認終了後、修正・確定した議事要旨を、教育委員会ホームページで公開する。

・今日の協議内容については、各組織の方々にもお知らせいただきたい。

なお、本で行ったシミュレーションの検討は「何かを決定したもの」ではなく、「協議のたたき台」である。この点を十分に留意して、各団体に伝達していただきたい。併せて、適正配置に関して質問、意見などあれば、直接、事務局に問い合わせいただくことも可能であることも伝えていただきたい。

また、適正配置は、学齢前の子どもにも関わってくる大切な事柄であると認識しており、「協議会だより」第２号を幼稚園や保育所等にも配るなど工夫するとともに、幼稚園や保育所、その保護者等から説明を受けたい旨の要望があれば積極的に対応していきたい。

もし、委員のなかで幼稚園や保育所の関係者にお知り合いの方がいれば、その旨を伝えていただきたい。

（６）会長挨拶（安部会長）

本日も、活発なご意見に感謝する。次回もよろしくをお願いしたい。